

困惑する木材価格の相場

木材の価格も他の資源と同じで需給バランスにて決定されます。これは当たり前のことですが、現在 服部商店が扱っている広葉樹の価格、特に先物価格の急上昇は、40年以上のキャリアの小生も戸惑っています。

アルダー材とホワイトアッシュ材の1インチを比較します。上記はコロナ前、下記はコロナ後です。(上記は小生の40年間の経験から見た2樹種の比較表です)

樹種	単価	節の仕分け	板の長さ・巾
アルダー4/4	比較的安い	比較的多い	比較的狭く・短い
アッシュ 4/4	アルダーより高い	比較的少ない	比較的広く・長い

↓

樹種	単価	節の仕分け	板の長さ・巾
アルダー4/4	高い	比較的多い	比較的狭く・短い
アッシュ 4/4	アルダーとほぼ同じ	比較的少ない	比較的広く・長い

木材単価の基準は原木単価から計算されます。アルダー原木単価は比較的安いです。しかし単価は安いながらも原木全体の品質は比較的悪い樹種です。ホワイトアッシュ材は虫(カミキリムシ)の病で生産量は激減しています。勿論価格も上昇していますが、木材の本質から見てアルダー材はホワイトアッシュ材に比較して品質は劣っていると思います。しかし、現在の状況はまるで違います。

アメリカ広葉樹の中で最も高騰しているのは、アメリカンブラックウォールナットです。次にホワイトオーク、ハードメープル、イエローポプラ、アルダー、ホワイトアッシュ、レッドオーク、ブラックチェリーです。最近まではブラックチェリーの価格は安定していましたが、他の樹種と比較してブラックチェリーは木の素晴らしさの割に安価でしたが、他の樹種の値上りに引きずられ徐々に価格が上がっています。又レッドオークに関しては、ホワイトオークの暴騰によってレッドオークが代用として使われるようになっていますが、ノーザンエリアに限られている様です。ノーザンエリアのレッドオークを服部商店は以前から扱っていますが、他の産地と比較すると白色に近いと思います。

アメリカの好景気はドル高円安を齎しています。船運賃の上昇、日本国内も運賃の上昇等があいまって、比較的値上りの少ない材で15%、平均レベルの材で25%、人気樹種は35%位の値上げが予想されています。

服部商店が企業努力で吸収できる範囲を超えています。従って少しずつ値上げ分を価格転嫁させて頂きますが、以前以上に産地等の情報公開はし続けます。

値打ちのない材の提供は致しません。

ウクライナ危機と国内の林業

政府は 2025 年位に木材需給率 50%以上の目標を掲げています。その目標を越える可能性は大きいと思います。日本国内の木材使用量は 1 年間でおよそ 6,000 万立方です。成長量は 1 億立方です。従ってやり方次第で外国に頼らずに木材資源を賄えるのです。

40 年昔木材需給率は 70%以上でした。それが 2019 年には 30%以下になっていました。需給率が下がった原因は色々有ります。下がるということは色々な事情があるにしてもあくまで需給バランスにて決定されてきたのです。これは異常なのです。

安価な木材資源を世界中から買えることで、戦略性のない木材の使い方を継続し続けてきたのです。しかし新型コロナウイルスが齎した事は我々日本人が戦略性を持った生き方をしなければならないことを如実に示したのです。

日本国内で最も大きな需要は住宅産業を含む建築業です。合板を含めると膨大な量が消費されています。その膨大な需要を賄う資源が日本国内に余っているのです。しかし膨大な資源を使う為には森から運び出す必要があります。膨大な資源を円滑に運び出すことを実現させる為には設備と人の問題が有ります。

単価が安い→売上げが上がらない→利益率が低い→給料等の所得が低い→従って人が集まらない→若者が集まらない→正しい木材の情報が行き渡らない→【完全な負の悪循環に陥っている】



単価が上がる→山に還元出来る→山が儲かる→山主がやる気になる→豪雨災害が減る→復旧等に関わる税金が減る→木材購入者の買付価格が上がる→住まいの価値が上がる→税金が増える→お金が回る【最も理想的な経済になる】

ただし上記の様に単純に行かないと思います。それは情報化社会（ネット社会）だからです。ネットを最大限使うことが日本人は最も遅れていることだと思います。下記は小生が想像するネット社会の有様です。

- 1, 住宅から家具工芸迄バーチャルで体験ができる業者しか生き残れない。
- 2, 工事現場の管理がしやすくなる。
- 3, 不必要な流通が無くなる。(住宅もアマゾンで買える時代が来るかも)
- 4, サプライヤーは限られてくると思います。消費者の選択肢が少なくなる可能性も有る。
- 5, 何もしない業者（ピンハネの流通業者）は無くなる可能性が大きいと思います。
- 6, 良い物は高くなると予想されます。製造出来る方は限られています。
- 7, フォーマット（規格化）は相当進む可能性が有ります。

2021 年後半、日本もインフレーションに陥ったことは間違いないですが、全ての方に恩恵が来るとは思いません。世の中に役に立つ方だけだと思います

未来の材木屋とは

消費者から私達はどのように見えているのでしょうか。これが将来の私達のヒントだと思います。材木業者にも色んなジャンルがあります。最も難しい立ち木を見る仕事から始まり、伐採した原木を調材する業者、その原木を買い付ける業者、その原木を製材する業者等、数えるだけで4つの分類・業者があります。その方達はプロフェッショナルです。

消費者の方達は、我々材木業者をプロフェッショナルと見ています。上記の方達は、各々の責任を分担して仕事をしているのです。

従ってその役割に応じてノウハウを持っているのです。このノウハウが有るのか、それとも無いのが世間（ネット社会）で試されると考えています。

ところで日本国内の木材資源を使うのが正しくて、外国産材を使うのが悪だと言う考え方が少しはびこりつつある様に思います。SDGsは持続可能な開発目標です。アメリカ広葉樹を育む森はSDGsその物です。その証をAHEC（アメリカ広葉樹輸出協会）でうたっています。しかし日本の森林にはAHECの様なデータは有りません。唯一東京大学演習林材が行っている森林調査を伴った伐採位でしょう。

SDGsを強調するなら、まずあなたの会社でその資格を取得してから発信して下さい。国産材だからSDGsって言うのは素人を愚弄しているではありませんか。SDGsの資格を得た業者だけが、消費者から見た正しい材木屋像だと思います。

現在の広葉樹の相場

先物価格を含めて、全ての木材は高騰しています。それは仕方がありません。企業努力で収まることでは全く無理です。従って現実今有る玉が最も安価な材だと考えています。

確かにブラックウォールナット・ホワイトオーク・ナラ等の値上がりが強調されていますが、値上がりは全樹種に及んでいます。従って樹種変更は今の状況下では非常に難しいと思います。と言うのは単価の上がり方が異常です。この異常さは流通している玉が大変少ないことを意味しているのです。

確かに一部のメーカーさんがホワイトオークから北のレッドオークに大幅にシフトするお話を聞いていますが、ノーザン地区のレッドオークだけで賄えるとは思いません。ペンシルバニアやアパラチアのレッドオークも使用せざるを得なくなると思います。又最近まで人気は今一つ盛り上がらなかったブラックチェリー（ニューヨーク州とペンシルバニア州産）も人気が出てきつつあると聞いています。

服部商店は大きなお店ではありませんが、いつもご購入頂く方達も、最近商いのない方達も公平公正に材を販売していく方針です。

世界中のマーケットが高騰しています。もし安い材が有れば、二流の産地二流のサプライヤーの商品です。

このページの「未来の材木屋とは」と照らし合わせて頂ければ良いのではと思います。

服部商店から、頑張れウクライナ応援セール

早く解決して欲しい戦争です。

2022年5月1日～5月31日

お得意先様向けのキャンペーン

毎週先着にて、30,000円以上（木材代金のみ・消費税・諸経費を除いて）御
買い上げの5名様に、アマゾンギフト券5,000円を差し上げます。

新規のお客様限定のキャンペーンを実施

50,000円（木材代金のみ・消費税・諸経費を除いて）以上お買い上げの全員
に、アマゾンギフト券10,000円を差し上げます。

